

[成果情報名] 杭打ち器を利用しためん羊放牧おける低コスト施設の設置

[要約] 低コストで設置できる放牧管理施設を、材料がホームセンターなどで入手できる部材を用いること、少人数で設置できること、適度な強度を確保すること、安価であることに留意し、杭打ち器を利用して設置する。

[キーワード] 杭打ち器、めん羊、中山間地域、荒廃地対策、低コスト施設

[担当] 三重県畜試・中小家畜研究課

[代表連絡先] 電話 0598-42-2207 E-mail :

[区分] 関東東海北陸農業・畜産草地 (中小家畜)

[分類] 技術・参考

-----  
[背景・ねらい]

草食の家畜を用いた雑草地対策は試行されているが、比較的取り扱いのしやすい小型草食獣であるめん羊を活用するため、杭打ち器を利用した低コスト飼養管理施設を設置する。

[成果の内容・特徴]

1. 低コスト牧柵

単管パイプと獣害対策に飼養されるワイヤースクリューメッシュ(15cmのマ目で1m×2m)を用いて作成する。少人数で安全に杭打ち作業が出来るよう金属端材を活用し杭打ち器を作成。図2

ホームセンターで手に入る部材を用いて作成。牧柵の杭は単管杭 1.5m を用い、獣害対策に使われる 1m×2m のワイヤースクリューメッシュを用いて柵を設置する。杭の間隔は 1.8m とし補強のため上部に単管パイプを直交クランプで固定、このことにより柵自体の補強にもなっている。メッシュの下部は当初ペグ等での固定を考えたが現在のところ必要は無いようである。その代わりメッシュ同士の重複部については、鉄筋用のワイヤをハッカーにて止める。図1、図3、図4、図5

2. 低コスト退避舎

退避舎は単管パイプを用いて牧柵に3本の中央柱2.5mをクランプにて固定し、上部に屋根ムネ用のジョイントを取り付け屋根用に2mの単管パイプをムネ金具に取り付け最下部に1.5mの柱を取り付けそれぞれの柱を4mの単管パイプをクランプを用いて固定する。補強のため2本で固定。

自重があるため妻の柱は固定しない。台風時には少し柱が開いた程度で倒壊は免れている。日除けとしてシルバーのシートをかけ単管用のプラスチック製のパッカーで止めてあるが台風による外れ等はなかった。図14、図15

牧柵を屋根の中心に置くことで両妻の形とし、2区を1つの退避舎で利用することができる。同様の形式で片屋根とすることも可能。牧柵の杭を利用することで堅牢なものになる。

3. コスト

低コスト牧柵は総額99,413円メートル単価1,619円/mである。また、退避舎は総額37,068円で平米単価2,206円である。

[成果の活用面・留意点]

1. コストについては中山間地域にある遊休施設を活用することにより低減は可能。地域で知恵を出し合ってよりよいものを作ることが地域活性化にもつながる。
2. 園芸ハウスや、すでにある獣害防護柵等を活用することも出来る。

(様式1・Word)

[具体的データ]

簡易牧柵

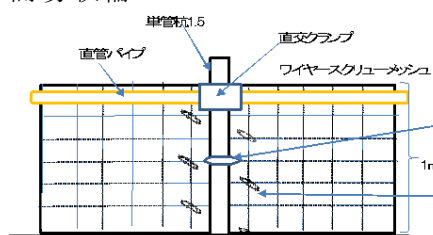


図1 牧柵の構造

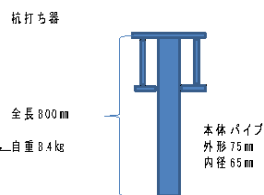


図2 杭打ち器



図3 杭とメッシュの固定



図4 牧柵杭設置

・日除け退避舎



図5 牧柵完成



図6 出入り口扉

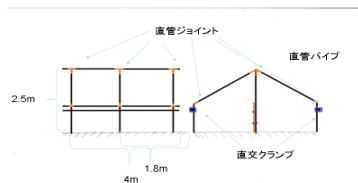


図7 低コスト退避舎



図8 横面



図9 縦方向



図10 中央支柱



図11 屋根棟部



図12 妻部



図13 シート押さえパッカー



図14 強風被害



図15 被害修正後

[その他]

研究課題名：中山間生活の一助となるめん山羊の活用研究

予算区分：県単

研究期間：2018~2020年度

研究担当者：松本真人 市川 隆久

発表論文等：特になし

(三重畜研)